ウェブアクセシビリティ・ガイドライン

件名：「令和7年国勢調査 人口等基本集計 結果の要約」のウェブページ化

本書は株式会社行間が自主的に制作した制作例に添える文書です。受託業務の納品物ではありません。この制作例のページを作るときに実際に守った事項を、ページを追加・更新する方向けにまとめたものです。

1. 目的と範囲

目標	JIS X 8341-3:2016 の適合レベル AA
対象	公表資料（PDF・Word・Excel）を元に作る、資料の掲載ページ
使う人	ページを追加・更新する職員の方と、作業を受託する事業者

以下の各項目の末尾の番号は、関係する JIS X 8341-3:2016 の達成基準です。

2. 文章

1. **数字は半角で書く。**原本が全角でも半角にそろえる（「１億 2297 万３千人」→「1億2297万3千人」）。全角と半角が混ざると、読み上げソフトが桁を正しく読めないことがある。
2. **字間をあけるための空白を入れない。**「国　勢　調　査」のように 1 文字ずつ空けると、単語として読み上げられない。見た目の間隔は CSS で付ける（1.3.1）。
3. **機種依存文字を使わない。**丸数字（①）、ローマ数字（Ⅳ）、単位記号（㎡）は「(1)」「4」「平方メートル」などに置き換える。ただし原本の表番号（表Ⅳ－１－１）を引用するときはそのままでよい。
4. **英語の部分には lang="en" を付ける。**資料名や英語の語句が日本語の文の中にあるとき、`<span lang="en">` で囲む（3.1.2）。
5. **原本の文章は変えない。**直してよいのは数字の全角・半角と、レイアウトのための空白だけ。誤りと思われる箇所があっても、原課に確かめるまで直さない。

3. 見出し

1. h1 は 1 ページに 1 つ（資料の題名）。
2. 原本の囲みの見出しや章の見出しは h2、その下の小見出しは h3。レベルを飛ばさない（h2 の次に h4 を置かない）（1.3.1、2.4.6）。
3. 文字を大きくしたいだけの箇所に見出しを使わない。
4. 章が 3 つ以上あるときは、ページの先頭に目次（ページ内リンク）を置く。

4. リンク

1. リンクの文字は行き先の名前にする。「こちら」「詳しくは」だけのリンクにしない（2.4.4）。
2. PDF などファイルへのリンクには、形式と大きさを書く（例：「結果の要約（PDF：554KB）」）。
3. 新しいウィンドウ・タブで開くリンクにしない。どうしても必要なときは、そのことをリンクの文字に書く（3.2.5 の考え方）。

5. 図・グラフ

1. **図は文字の画像にしない。**グラフは SVG で描き、目盛・凡例・数値を文字のまま残す。PDF から切り出した画像を貼らない（1.4.5）。
2. **図に名前と説明を付ける。**図の番号と題名を figcaption に、図から読み取れる要点（最大・最小・推移など）を説明文に書き、SVG に role="img" と aria-labelledby で結び付ける（1.1.1）。
3. **すべての図に数値の表を添える。**原本の図に数値が書かれていないときは、元の表（同じ公表の別資料や e-Stat）から数値を取り、出所を注記する。数値が手に入らない図は、その旨を書いて説明文で内容を伝える。
4. **色だけで区別しない。**系列は線の種類（実線・破線）、印の形（■◆●▲）、模様でも区別でき、凡例を文字で書く（1.4.1）。
5. **図の中の文字のコントラスト。**白い棒の上に白い文字を置かない。濃い棒の上に白い文字、淡い棒の上に黒い文字（いずれも 4.5:1 以上）。
6. 原本の地図（塗り分け）は、都道府県を同じ大きさのマスで並べた地図に置き換えてよい。置き換えたことを注記する。

6. 表

1. 表には caption（表の番号と題名）を付ける。
2. 見出しのセルは th にし、列の見出しは scope="col"、行の見出しは scope="row"、2 段の見出しの上段は scope="colgroup" を付ける（1.3.1）。
3. 見た目を整えるために表を使わない。セルの結合は見出しだけにし、データのセルは結合しない。
4. 値がないセルは空けず、原本どおり「ー」などを書く。注記の番号は sup で示し、注記の本文を表のすぐ下に置く。
5. 幅の広い表は、表の枠だけを横に動かせるようにする（ページ全体を横に動かさない）。枠には tabindex="0" と名前を付け、キーボードでも動かせるようにする（1.4.4、2.1.1）。

7. 色と文字の大きさ

1. 文字と背景のコントラスト比は 4.5:1 以上（大きな文字は 3:1 以上）（1.4.3）。このテンプレートの色はすべて満たしているので、色を追加しない。
2. 文字の大きさは rem で指定し、ブラウザで 200% に拡大しても文字が重ならないようにする（1.4.4）。
3. フォーカスの枠（オレンジの 3px の線）を消さない（2.4.7）。

8. PDF の扱い

1. 資料の内容は HTML で掲載し、PDF は原本として併せてリンクする。PDF だけの掲載にしない。
2. 今回の原本はタグのない PDF（読み上げの順序や見出しの情報がない）でした。HTML にすることで、見出しで移動でき、表を見出しつきで読み上げられ、図の数値を確かめられるようになります。

9. 公開前の確認

確認すること	方法
HTML の文法	W3C の Nu Html Checker（https://validator.w3.org/nu/）でエラーが 0 件
キーボード	マウスを使わず Tab キーでページの最後までたどり、すべてのリンクと開閉に届くこと、枠が見えること
拡大	ブラウザで 200% に拡大し、文字の重なりやページ全体の横スクロールがないこと
数値	図の数値の表と原本の数値を照合する（制作例では build_page.py が自動で照合）
見出し	見出しの一覧（ブラウザの拡張機能や読み上げソフトの見出し一覧）で、章立てが原本と同じであること